

令和1年度 地域生活支援センター すたあと 事業報告

《 令和1年度の経過と評価 》

令和元年度は、重点課題として運営基盤体制の強化・運営管理体制・支援体制を見直し、より良いサービスが提供できるよう次のことに取り組んだ。

運営基盤体制の強化について

実績（売り上げ）を上げるために相談員からの利用希望についても前向きに取り組み、短期入所も緊急の受け入れと新規利用者の受け入れをすることで増えている。しかし、職員の高齢化が進んできているため支援内容を精査し、身体介助上で2名体制の確保が必要となり人件費の増加につながっている。実績が目に見えるようにシステムを作り、月々の業務見直しができるようにした。そのシステムは1月に作成したため今後活用し実績向上のために運用しようとしている。

運営管理体制について

今年度より新しい管理システム（ほのぼの）を導入し法人内の情報共有のために手書きの記録を再度PCに打ち込む負担が増えた。しかし、PC入力ができる職員が限られており、正規職員の仕事となっていることが課題となっている。正規職員が日々の支援の現場に入らなくてはならず、上手に事務管理業務をする時間を割り振ることができなかった。

支援体制の見直しについて

利用者の安全確保と職員の支援の質の向上のため2名体制をとることに調整を務めた。大きな事故もなく、新規利用者の利用も増えた。利用者の必要に応じて食事介助と入浴支援を丁寧に取り組んで利用者及び保護者の安心安全確保につながった。

協力体制について

管理者会議、法人内研修、各種委員会などによりすたあとの足りない部分（日々の業務に追われることで計画的に広い視野を持ち業務を展開していくことができていない）を知ることができ、課題が見えてきた。

法人外の家族入院等（高齢者家族にに限らず）により緊急な短期入所の問い合わせは多く、利用者の多様なニーズや専門性が求められることに対して、相談支援事業所や日中の事業所など、情報共有・連携し支援の組み立てや情報収集・支援体制づくりができた。

すたあとのテーマでもある「いつまでもその人らしく住み慣れた地域で暮らせる環境をサポート」を目標とし利用者一人一人が健康で過ごす為に課題・目標・本人家族の思いを受け止めより良い支援を追及していくよう努めた。

【短期入所事業】

週5日（月・火・水・金・土）、月1回日曜日、緊急時の対応について利用調整を行った。
短期入所では、家族の緊急入院の為に利用したいと相談員から連絡を受け、すぐに日中利用している事業所へ出向いて支援会議を行い、本人と顔合わせをして利用に繋げるなどスピーディな対応を要求されるケースから、家を離れて宿泊することに慣れていない方の受け入れなど様々であり、一人一人に対しての丁寧な支援が必要となる。その為に家族、日中利用している事業所、相談員との情報の共有がとても大切となるので、利用時に気になったことや家庭や事業所での日中の様子など、聞き取りやこちらからの情報提供を積極的に行うようにしている。また、（排泄の失敗が続いてしまう利用者や食事がうまく摂れない利用者など、）特に細かな対応が必要な方については、家庭や日中の事業所と情報共有をしながら事業所内で理由を探り、支援方法を何度も検討した。どの支援員が関わっても対応できるように会議等で支援状況の情報共有をおこない、支援の均一化を心がけ、現在も継続して支援を行っている。
夜間安全に（災害時等の緊急的な対応も踏まえて）宿泊支援ができるよう、なるべく支援員2名体制となるように宿泊者の調整を行った。

【日中一時支援事業】

平日 火曜・木曜・金曜 10:00~15:00 の受け入れを行っている。
送迎がないため家族の協力を必要とするが、利用者・家族との距離が最も近い事業であり、情報共有など細かく行うことができている。定員4名と少人数の為、利用者一人一人の体調・気持ちに寄り添い、日中活動の充実・意思決定を行っている。
食事介助では一人一人の嚥下機能に注視し、食事形態を体調等に合わせ変更したり、口腔ケアを丁寧に行うなど、安心・安全を心がけて支援を行うことができた。
前年度と比べ契約者数は変化していないが体調不良等もあり開所日は減少傾向となった。
家族の負担(送迎・実費負担)もありニーズとのギャップがある。事業として課題は多いがすたあとのテーマでもある「いつまでもその人らしく住み慣れた地域で暮らせる環境をサポート」の実現に向け最も大切にしている事業であり次年度に向け中長期的な事業のあり方を課題とし利用者が利用しやすい事業のあり方に努めていきたい。

【居宅介護事業】

一人暮らしをされている方も多く、健康面・些細な変化にも気づきが必要となる。ご家族・相談員との情報共有を行い安全に暮らしていただくヘルパーの役割は重要な支援である為ヘルパー会議などの情報共有・サポートカレッジの活用など行い支援者のスキルアップに努め、相談員に報告を行うことで支援体制の強化に繋がるよう努めた。

【移動支援事業】

移動支援のニーズ調査の聞き取りを行い、利用希望受付の際に希望・目的（社会経験の獲得・生活の充実）等移動支援利用希望表に記入していただき調整を行い対応していく
今年度新型コロナウイルス対応の為に 交通機関・カラオケ・外食等の支援など休止させていただき事態となったが、利用者の安定した生活を送っていただく為必要な方においては個別に代替案等で対応した。

【地域活動への取り組み】

今年度は地域の方に向け

6月『すたあとマルシェ』

近隣の方に日々の感謝とすたあとを知っていただく機会とし又地域のボランティア団体つくし・施設・大学・高校の協力していただき開催。前年度は台風接近の為開催できず今年度で3回目の開催となったがゲーム・お菓子の家・缶バッジなどは近隣の子供たちや介護施設の方々に来場していただき好評を得た。

1月『防災訓練（火災で助かる人の境・実際の火災から事例でのお話しや火災の基礎知識（今と昔）知っておこう火災の原因）』を開催。いざという時に近隣・施設・大学等協力体制がとれるよう年1回開催している。今年度はすたあと利用者のご家族にも参加していただきすたあとの課題など知っていただく機会となり講和の後の炊き出しでは消防署の方や近隣の方と会話ができた。

また、障害を持つ親御さんを対象として『マザーズサロン』を5月と10月の2回開催した。定員15名程（支援員含む）少人数な為とても話しやすい環境の中で行うことができた。

5月『障害福祉サービス・介護保険を知る』について

今年度今まで利用されていた方が2名福祉サービスから介護保険に移行されたこともあり講師を招きご家族・支援員と福祉サービスから介護保険にどう移行していくことがご本人にとってご家族にとって考えることができるかなど素朴な疑問についても話しやすい環境で行うことができた。

10月『障害児者と兄弟の関係について』を設定し、テーマを通し親御さんやご本人の想いを支援員も聴かせていただく機会となった。マザーズサロンはご家族との意見交換するとても貴重な機会であり今後も継続して行っていきたい。

《 重点課題に対する取り組み 》

【運営基盤・体制の強化】

今年度職員が、一人移動となり非常勤2名を事務業務やスタッフ会議等のメンバーとしすたあとの体制強化の為 事務業務の整理・見直しを行いながら業務内容の共有等を行っている。また今年度から新しい管理システム（ほのぼの）を導入となったが活用し切れていない。

来年度に引き続き体制を整え業務の見える化を行い（業務の細分化と各スタッフへの割り振り）質を変えなければならない。

支援員も勤務体制がまちまちなで情報の共有が難しい。引継ぎノート・個人ファイル・事務所内の張り紙等の活用やヘルパー会議内で講習の機会を設けた。（歯科衛生士による口腔ケアの研修・火災についての講習（消防署）ほっとピアの出前講座（障害特性・個別支援計画）等を行うことでスキルアップとコミュニケーションがとりやすく支援員が安心して仕事を行うことができる体制を整えている。

【利用者支援】

家族の入院等による緊急的な短期入所の利用については、年数件希望があり、短期入所の大切な役割であると捉えている。相談員、日中利用の事業所、ご家族等と情報共有し、早急に対応できる支援体制を整えることができた。

今年度は昨年度から引き続き利用者の健康について着目し口腔ケア・食事内容・量 運動等 支援員が気を配り対応を行う。嚥下機能についても家族と情報共有しながら丁寧に対応し安心・安全を心がけ支援を行っている。

健康に過ごすことができる環境を整える（口腔ケアの必要性に着目しすたあと内において講師を招き看護師・支援員・御家族と合同研修を行った）支援員のスキルアップ・問題意識の共有・情報共有し必要に応じ定期通院などの対応を行った。

自分の体調などについて状況をうまく伝える事が出来ないなど。日中の事業所（看護師情報共有）通院介助などに行き医師に伝え、相談支援事業所、日中活動の事業所・短期入所・との連携を大切にし、ご家族にも状況を理解していただける様行った。時には体重と摂食の管理表を支援員と利用者で作成を行った。

経験不足により興味関心がない利用者の方には移動支援を利用し一緒に外出し体験を増やし興味のあるものを探求する方、今までできたことが少しずつ出来なくなった方については些細な変化に気づき相談員・ご家族との情報共有を行うなど一人一人必要なサービスを丁寧な支援を行いその人らしい生活が送れるよう努めた。

【人材育成支援力の向上】

すたあとでは多様なニーズ、利用者種別も様々なため専門性と情報共有が必要である。

今年度初任者研修3名（受講中含め）・強度行動障害研修1名 修得

法人全体会議・ヘルパー会議を通し研修の機会を持ちフィードバックし利用者支援についても共有できるよう心掛けた。一人仕事にならないよう複数での勤務体制になるよう調整しながら支援員一人ひとりの意見が反映できる様ヘルパー会議、親睦会、大掃除など支援員全員が集まれる機会を定期的にもうけ風通しの良い環境に努めた。

利用実績（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

(1) 指定居宅介護等事業

- ①居宅介護 － 男： 18名 女：18名 【 計：36名 】
- ②行動援護 － 男： 4名 女： 4名 【 計： 8名 】
- ③重度訪問介護 － 男： 0名 女： 0名 【 計： 0名 】
- ④移動支援 － 男： 20名 女：19名 【 計：39名 】

【合計：44名】

(移動支援事業)

ヘルパー利用 : 指定居宅介護等事業（行動援護を含む）、指定移動支援事業

※実績人数は利用実人数

月		居宅介護 身体介護	居宅介護 家事援助	居宅介護 通院介助	行動援護	移動支援 身体あり	移動支援 身体なし	合 計
4月	実績人数	10名	7名	8名	5名	13名	10名	53名
	実績時間	83.5h	32.5h	19.5h	16h	48h	35h	234.5h
5月	実績人数	10名	7名	6名	4名	13名	13名	53名
	実績時間	89h	27.5h	13.5h	8h	57h	58h	253h
6月	実績人数	11名	7名	7名	4名	10名	11名	50名
	実績時間	78.5h	36.5h	19.5h	23.5h	49h	50h	257h
7月	実績人数	11名	8名	7名	4名	12名	12名	54名
	実績時間	93h	50h	16h	13.5h	53h	54h	279.5h
8月	実績人数	14名	10名	6名	4名	15名	9名	58名
	実績時間	80.5h	34.5h	27.5h	11.5h	67h	34h	255h
9月	実績人数	13名	9名	8名	3名	15名	9名	57名
	実績時間	83.75h	38h	16h	21.5h	49h	42h	250.25h
10月	実績人数	12名	9名	7名	3名	12名	6名	49名
	実績時間	96.75h	43h	18.5h	14.5h	60h	26h	258.75h
11月	実績人数	12名	10名	8名	7名	14名	6名	57名
	実績時間	87.5h	27.5h	20h	37.5h	62h	19h	253.5h
12月	実績人数	13名	9名	8名	5名	7名	10名	52名
	実績時間	71h	24.5h	19h	21.5h	41.5h	34h	211.5h
1月	実績人数	12名	9名	9名	5名	11名	7名	53名
	実績時間	75h	25h	17.5h	24.5h	38h	23h	203h
2月	実績人数	12名	8名	7名	5名	13名	7名	52名
	実績時間	82.5h	33.5h	14.5h	23.5h	50h	30h	234h
3月	実績人数	11名	10名	8名	4名	10名	5名	48名
	実績時間	102.25h	34.5h	17h	6.5h	30h	11h	201.25h
合 計	実績人数	139名	103名	89名	53名	145名	105名	
	実績時間	1017.5h	407h	218.5h	222h	604.5h	416h	
月平均	実績人数	11.5名	8.5名	7.4名	4.4名	12名	8.7名	
	実績時間	84.7h	33.9h	18.2h	18.5h	50.3h	34.6h	

(2) 指定短期入所事業

男：49名 女：30名 【計：79名】

区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	障害児
人数	0	4	7	21	16	21	10

実績人数・宿泊日数

※実績人数は利用実人数

月	実績人数	宿泊(日数)	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	障害児	平均人数(1日)
4月	42名	23日	0	2名	3名	10名	9名	12名	6名	4.3名
5月	42名	17日	0	3名	2名	11名	7名	13名	6名	3.8名
6月	44名	19日	0	3名	2名	11名	9名	13名	6名	4.1名
7月	42名	18日	0	2名	3名	12名	8名	11名	6名	3.8名
8月	42名	17日	0	2名	2名	13名	8名	12名	5名	3.9名
9月	42名	19日	0	2名	2名	10名	10名	12名	6名	4.0名
10月	37名	17日	0	2名	3名	10名	5名	13名	4名	4.4名
11月	45名	20日	0	3名	2名	14名	8名	12名	6名	4.0名
12月	42名	18日	0	3名	3名	14名	5名	12名	5名	4.3名
1月	35名	16日	0	2名	1名	7名	7名	13名	5名	3.8名
2月	39名	16日	0	3名	3名	11名	5名	12名	5名	4.2名
3月	40名	20日	0	1名	2名	11名	8名	15名	3名	4.8名
合計	492名	220日	0	28名	28名	134名	89名	150名	63名	49.4名
月平均	41名	18.3日	0	2.3名	2.3名	11.1名	7.4名	12.5名	5.2名	4.1名

(3) 指定日中一時支援事業（地域生活支援事業）

男： 5名 女： 7名 【 計： 12名 】

※実績人数は利用実人数

月	実績 人数	延べ 人数	利用 日数	身体介護 伴わない	身体介護 伴う	重心	平均人数 (1日)
4月	5名	12名	11日	0	2名	10名	1.0名
5月	5名	15名	12日	0	6名	9名	1.2名
6月	4名	11名	9日	0	3名	8名	1.2名
7月	7名	21名	15日	0	10名	11名	1.4名
8月	8名	25名	15日	0	11名	14名	1.6名
9月	5名	13名	9日	0	7名	6名	1.4名
10月	6名	13名	10日	0	7名	6名	1.3名
11月	4名	10名	9日	0	3名	7名	1.1名
12月	6名	17名	11日	0	6名	10名	1.5名
1月	5名	8名	6日	0	4名	4名	1.3名
2月	6名	12名	10日	0	6名	6名	1.2名
3月	7名	17名	11日	0	10名	7名	1.5名
合計	68名	174名	128日	0	75名	98名	15.7名
月平均	5.6名	14.5名	10.6日	0	6.25名	8.1名	1.3名

(4) 福祉有償運送事業

男： 19名 女： 21名 【 計： 40名 】

月	移 送	
	実人数	回数
4月	14名	19回
5月	16名	26回
6月	14名	18回
7月	16名	24回
8月	16名	27回
9月	13名	17回
10月	12名	18回
11月	12名	18回
12月	10名	22回
1月	12名	17回
2月	11名	20回
3月	11名	21回
合計	157名	247回
月平均	13名	20.5回